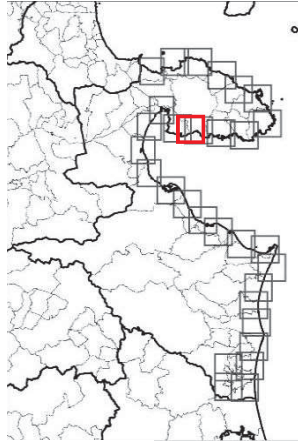
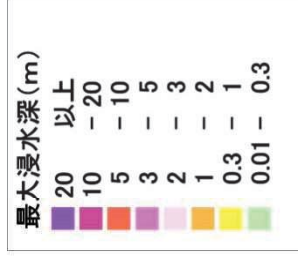


レベル2の津波の最大浸水深図（重ね図）（m）

2.1 伊豆市



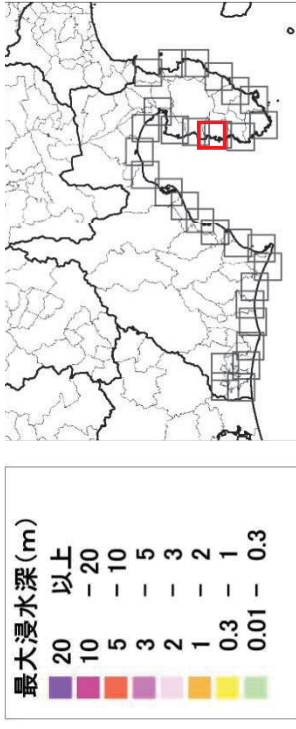
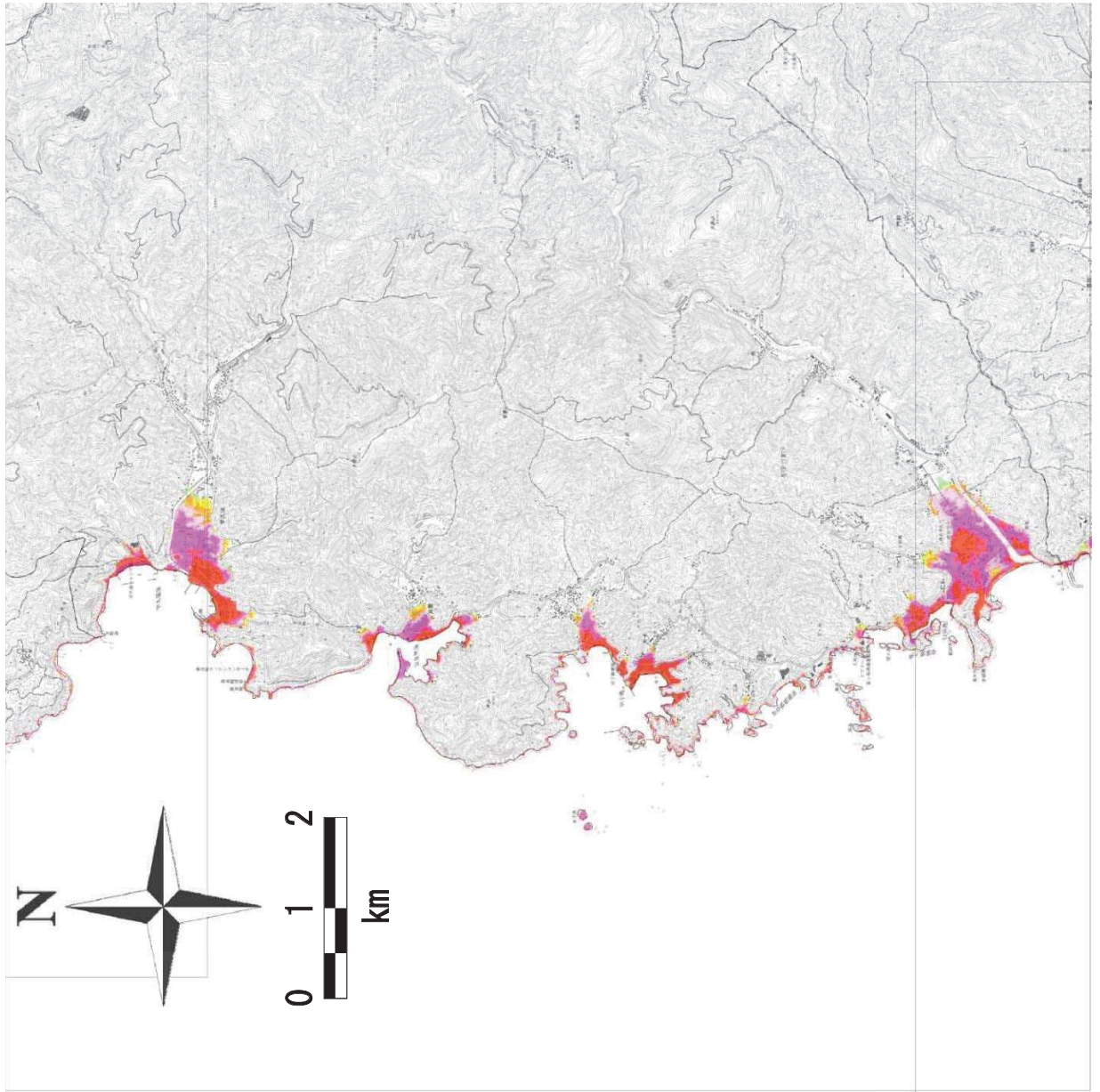
【留意事項】

- 本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。（南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元禄型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです）
- ・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるといった仮定をしています。
- ・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。
- ※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の前震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。過去に発生した津波が想定される可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないと言われた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。
- 本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波の想定は最新の地形データに基づいておりませんが、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平244-GISMP31012号）

レベル2の津波の最大浸水深図（重ね図）（m）

2.2 西伊豆町



【留意事項】

○本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。（南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元禄型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです）。

- ・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるという仮定をしています。
- ・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。

※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。

○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないといわれた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。

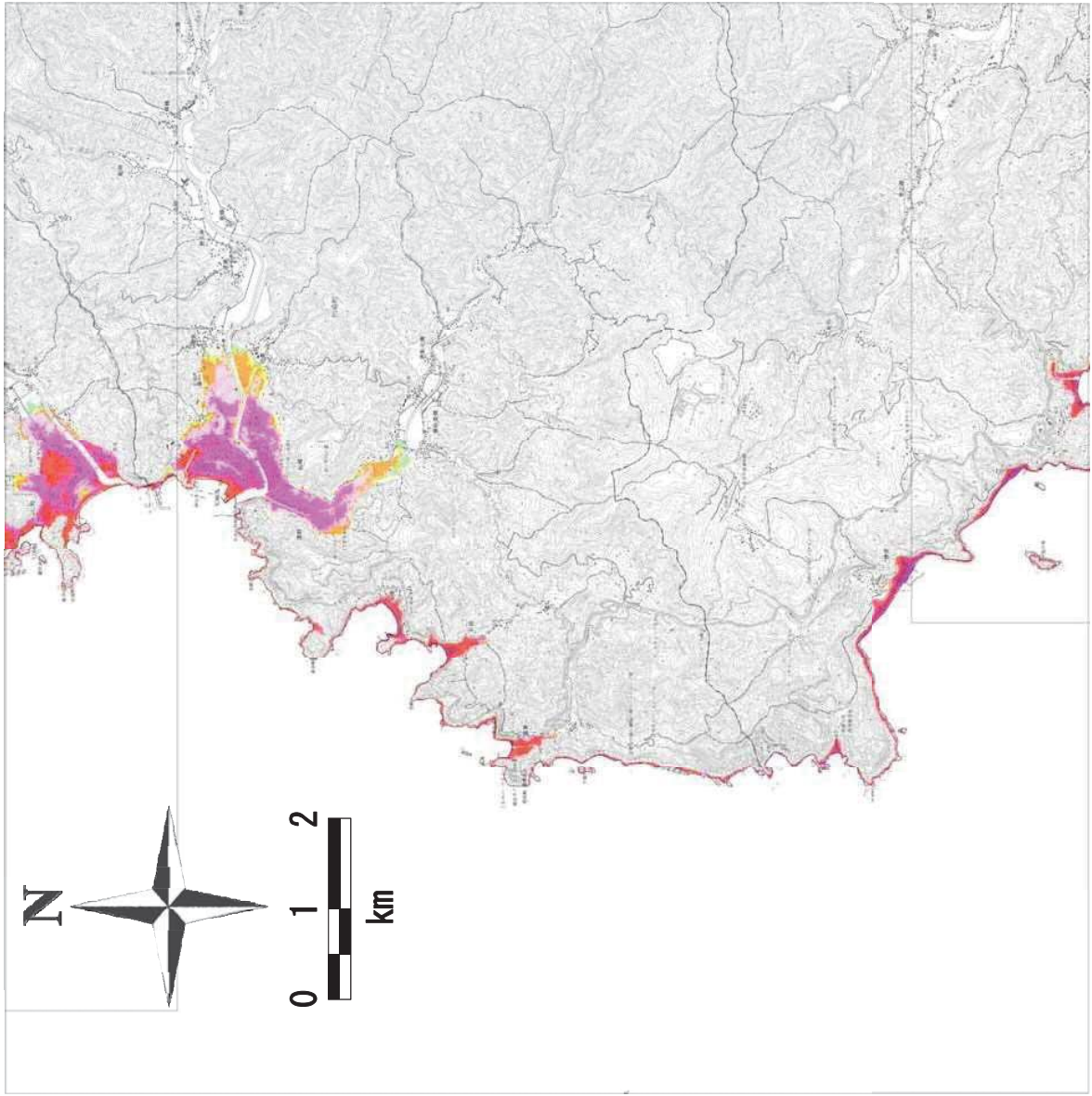
○本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

○浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

○津波の想定は最新の地形データに基づいておりますが、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平24情使、第244-61SNAP31012号）

レベル2の津波の最大浸水深図（重ね図）（m）



23 松崎町・南伊豆町



【留意事項】

○本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。（南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元様型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです）。

・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるとい仮定しています。

・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。

※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。

○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないと言われた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。

○本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

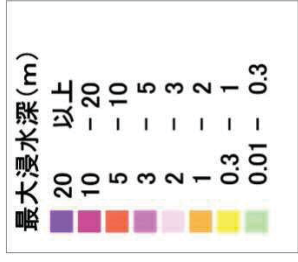
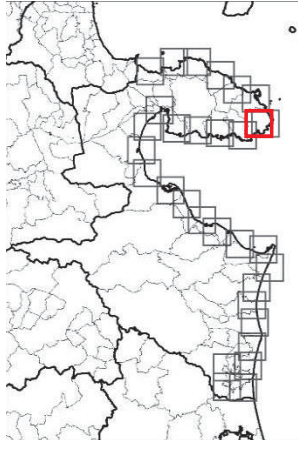
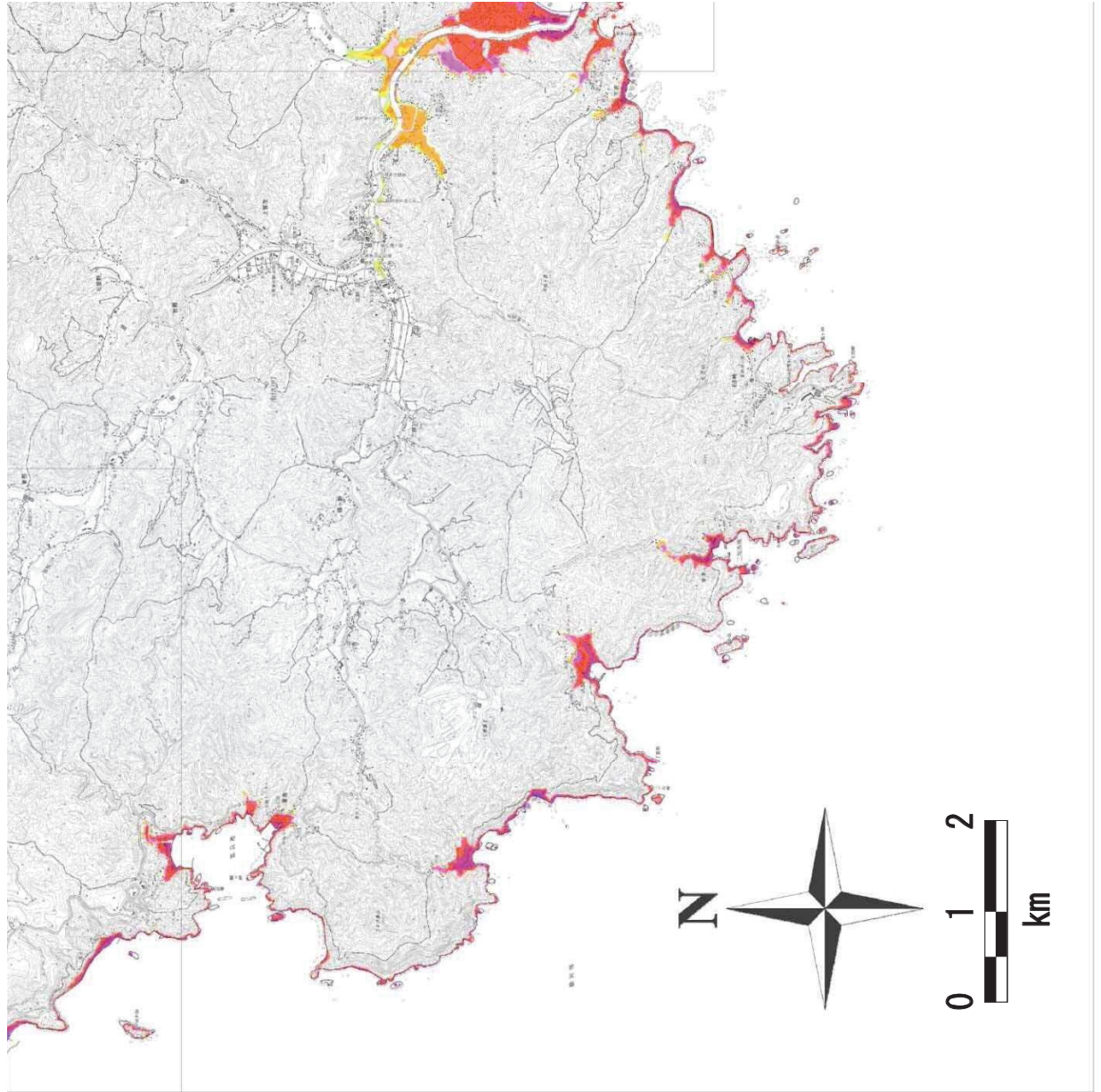
○浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

○津波の想定は最新の地形データに基づいておりますが、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平244-GISMAP31012号）

2 4 南伊豆町

レベル2の津波の最大浸水深図（重ね図）（m）



【留意事項】

○本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。（南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元禄型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです）。

- ・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるという仮定をしています。
- ・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。

※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。

○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。過去に発生した津波が想定される可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないといわれた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。

○本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

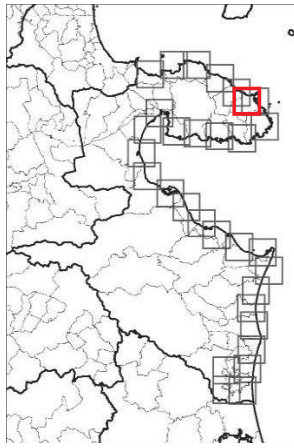
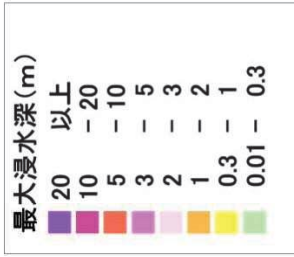
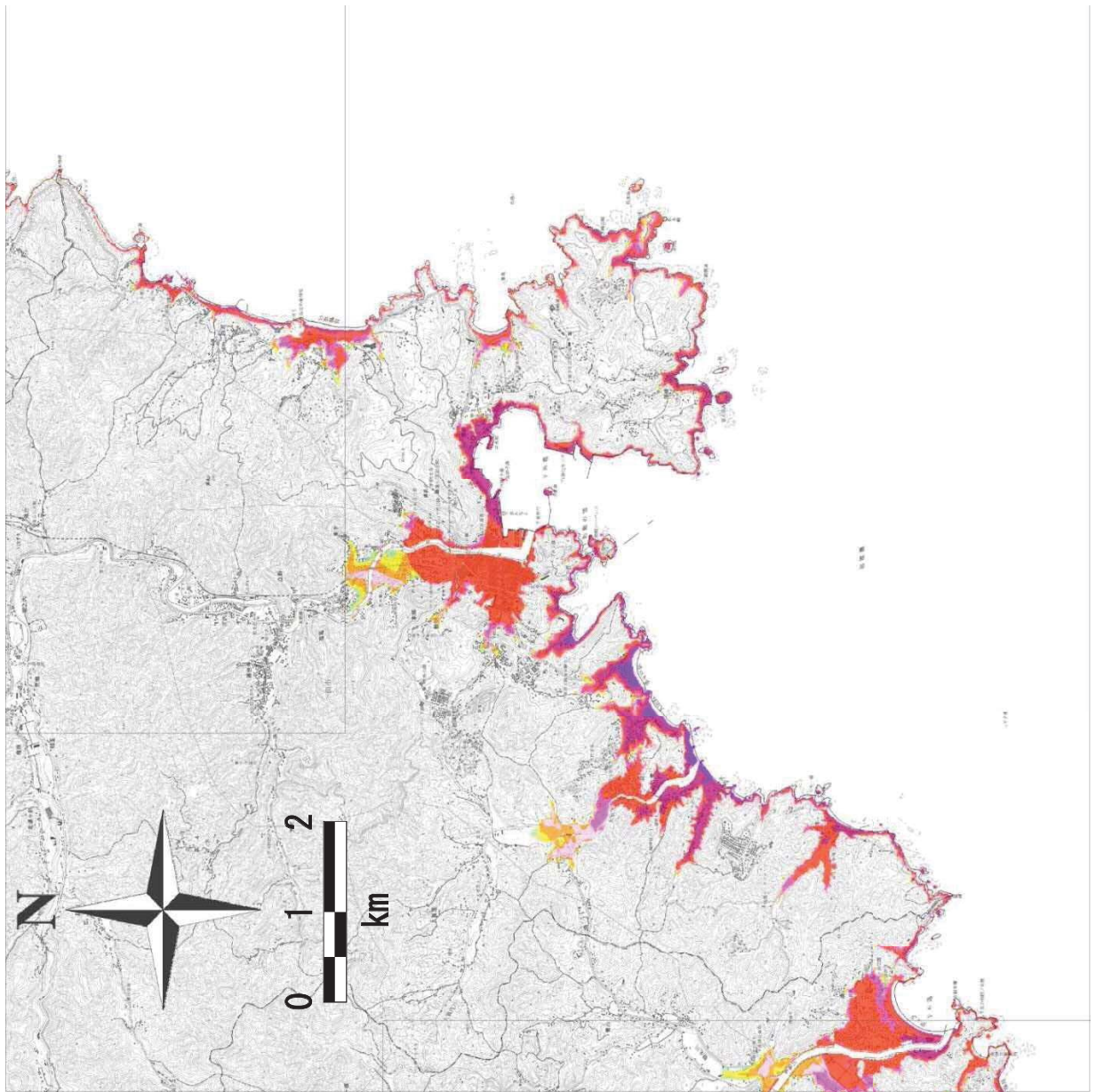
○浸水域や浸水深は、地面の凹凸や建造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

○津波の想定は最新の地形データに基づいており、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平 24 情使、第 244-G ISMAP31012 号）

レベル2の津波の最大浸水深図（重ね図）（m）

25 下田市



【留意事項】

○本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。（南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元禄型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです）。

- ・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるという仮定をしています。

- ・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。

※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。

○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。過去に最大な津波が発生する可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないとされた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。

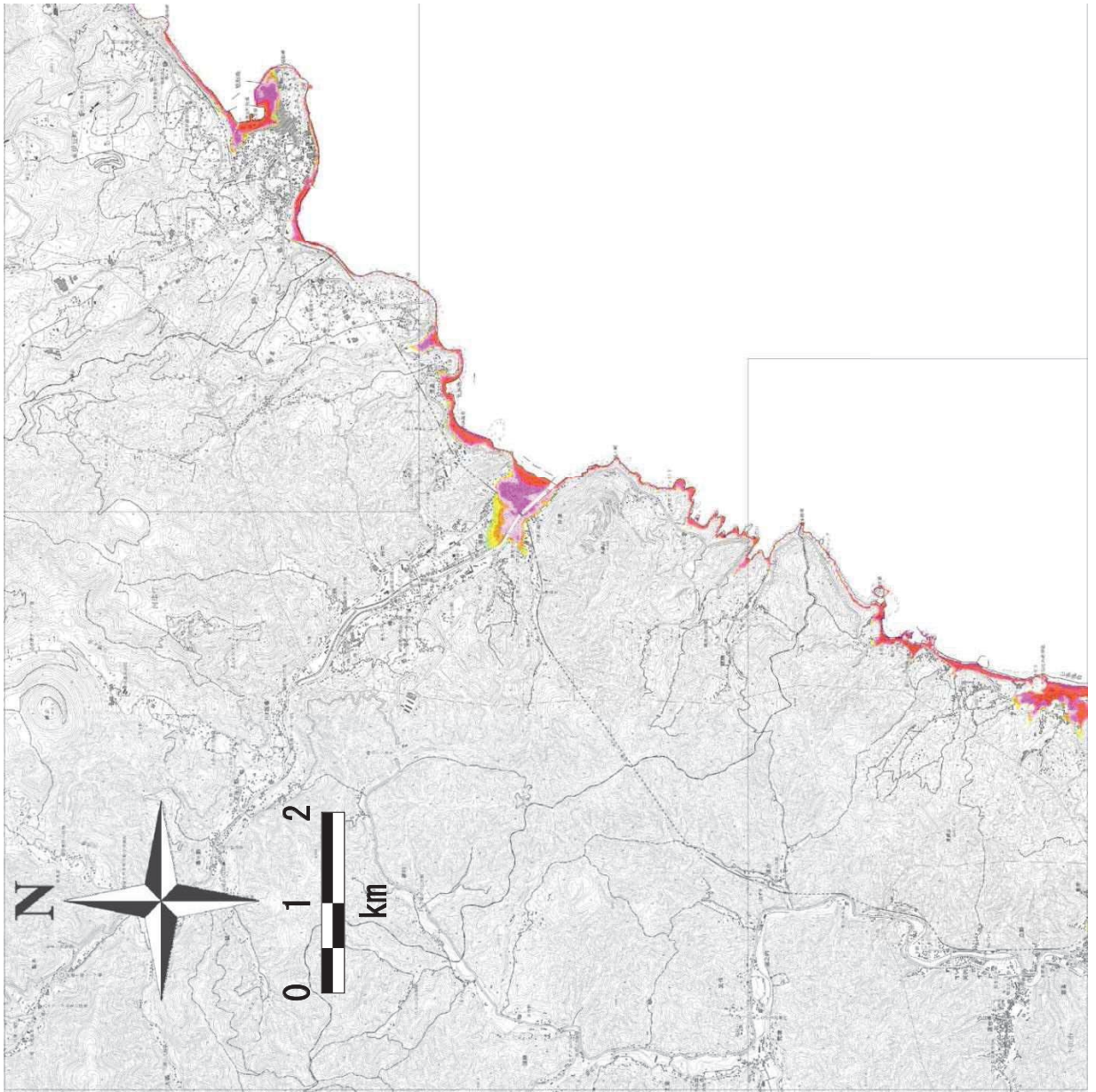
○本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

○浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなる場合があります。

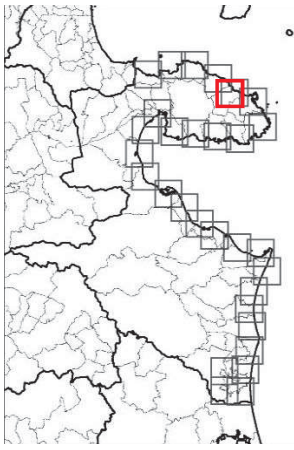
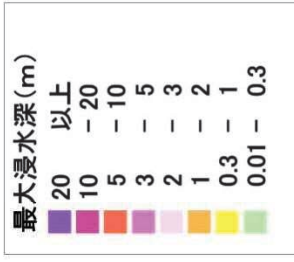
○津波の想定は最新の地形データに基づいておりましたが、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平24-情使、第244-GISMAP31012号）

レベル2の津波の最大浸水深図（重ね図）（m）



26 河津町



【留意事項】

○本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。（南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元禄型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです）。

- ・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるという仮定をしています。
- ・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。

※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。

○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないといわれた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。

○本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

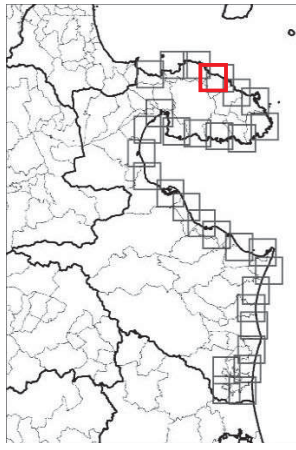
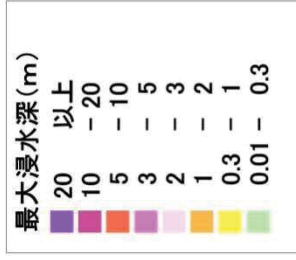
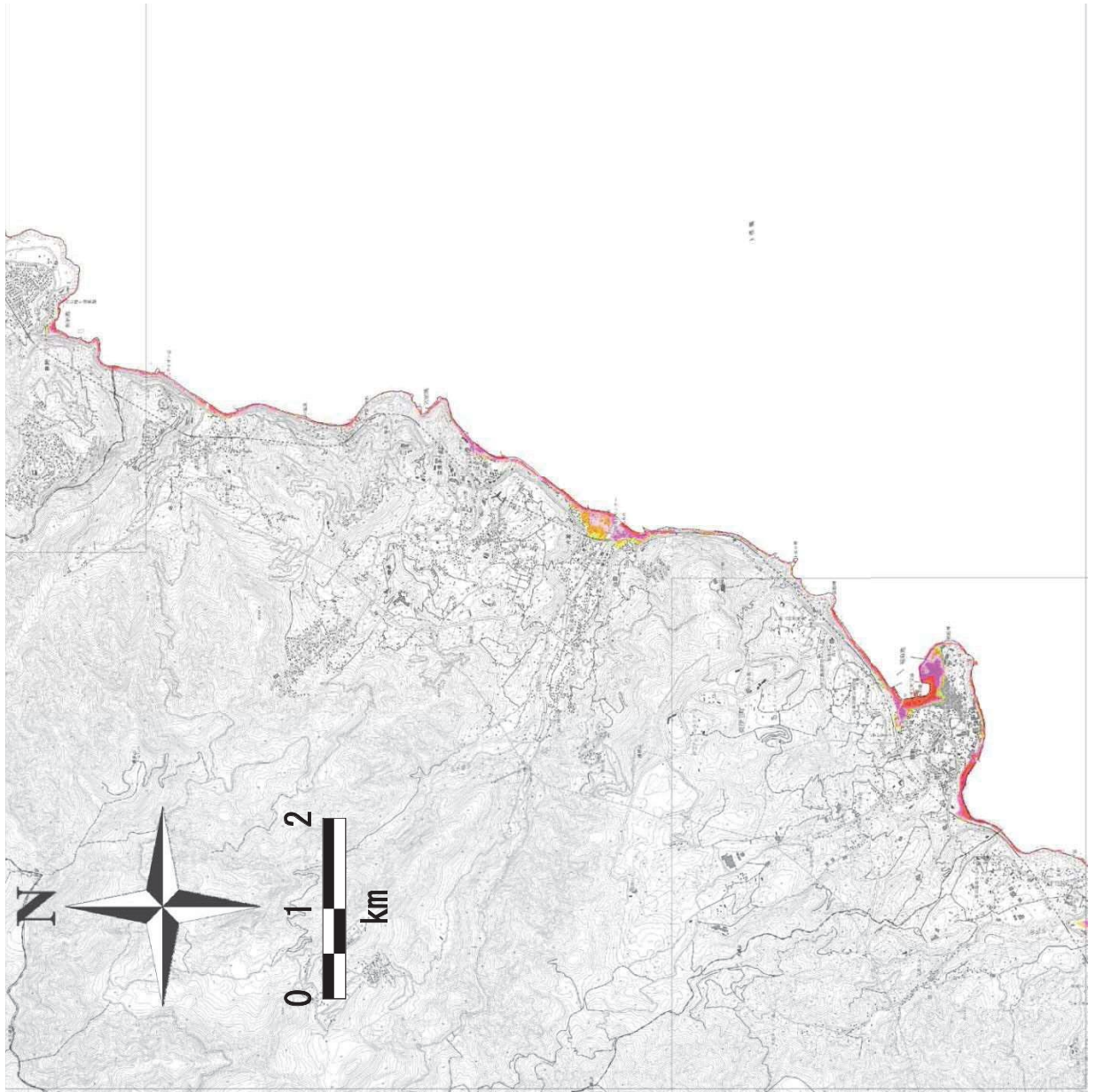
○浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

○津波の想定は最新の地形データに基づいておりますが、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平24精使、第244-GISMAP31012号）

レベル2の津波の最大浸水深図（重ね図）（m）

27 東伊豆町

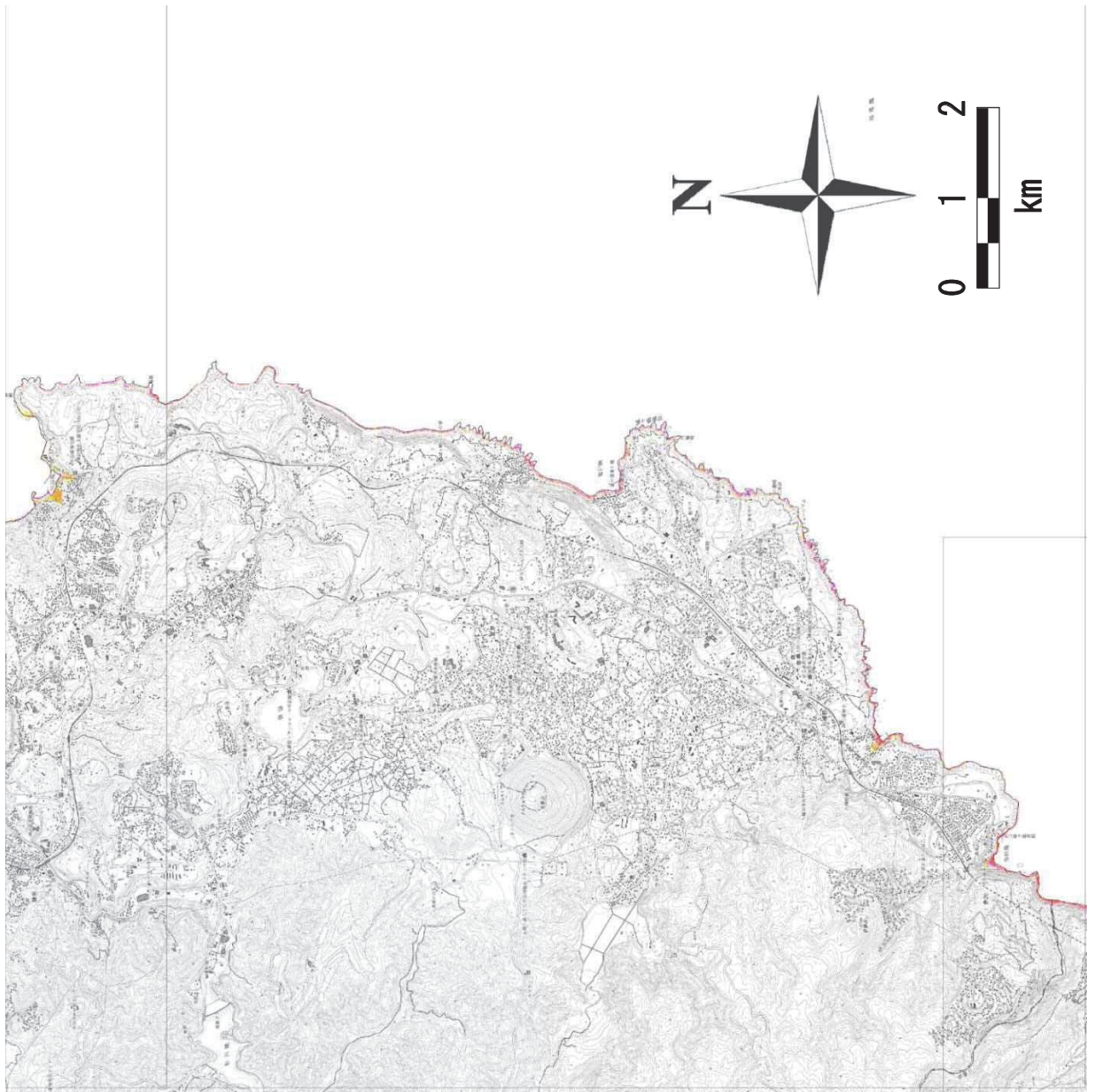


【留意事項】

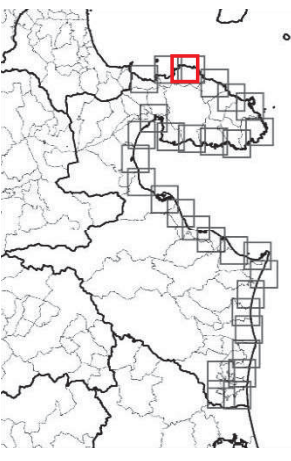
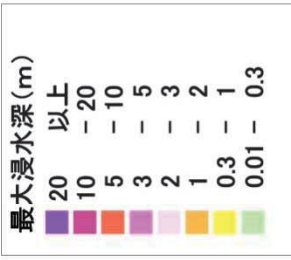
- 本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。（南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元禄型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです）
 - ・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるという仮定をしています。
 - ・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。
- ※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。過去に発生した津波が想定される可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないとされた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。
- 本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波の想定は最新の地形データに基づいており、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平24-精使、第244-GISMAP31012号）

レベル2の津波の最大浸水深図（重ね図）（m）



28 伊東市



【留意事項】

○本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。（南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元禄型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです）

- ・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるという仮定をしています。
- ・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。

※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。

○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないといわれた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。

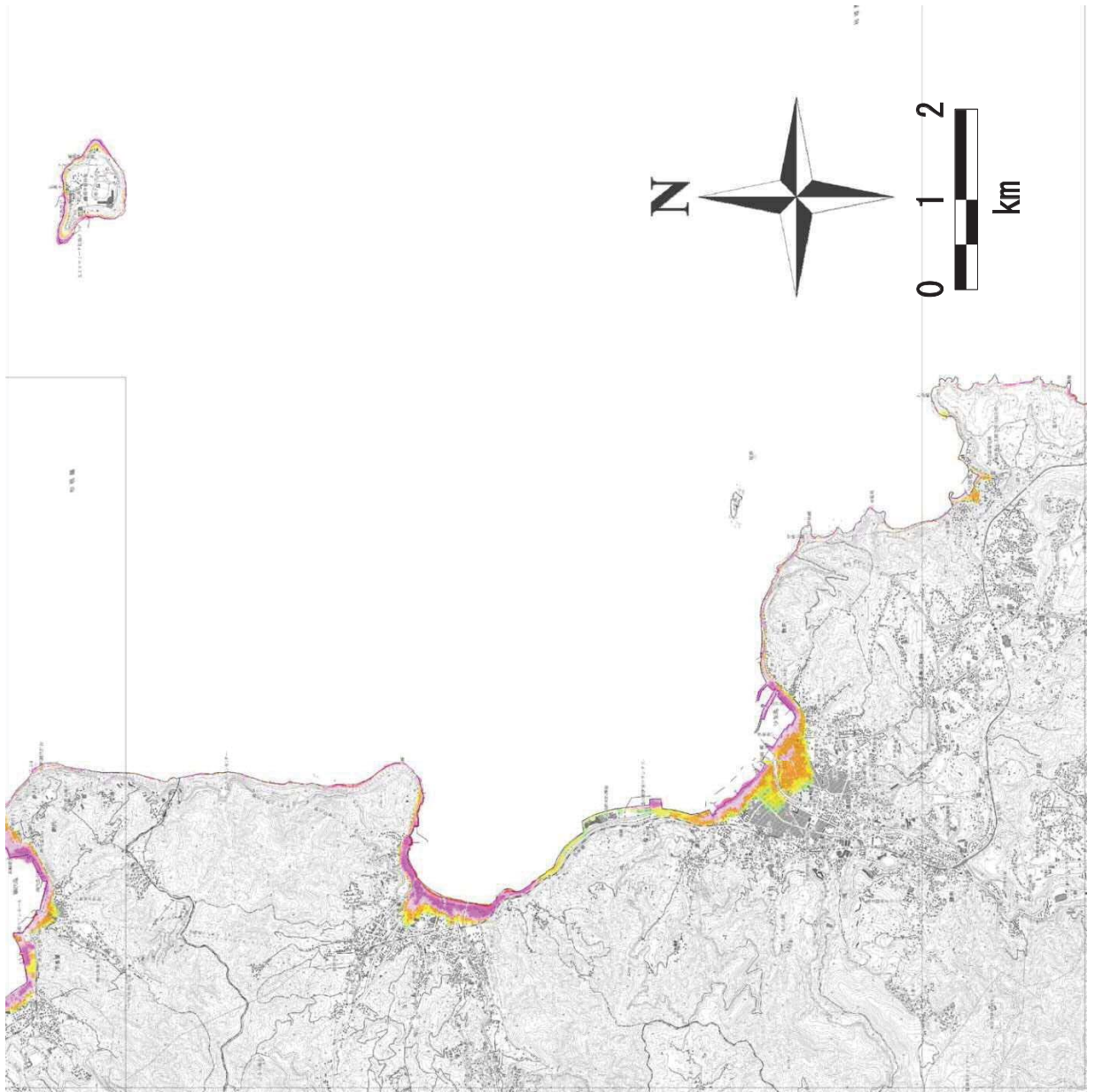
○本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

○浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなる場合があります。

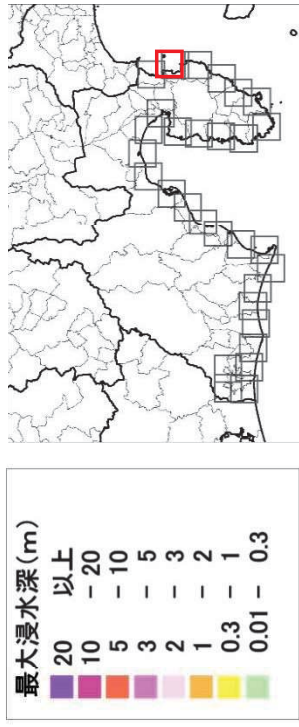
○津波の想定は最新の地形データに基づいておりますが、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平 244-Q1SMAP31012号）

レベル2の津波の最大浸水深図（重ね図）（m）



29 伊東市・熱海市

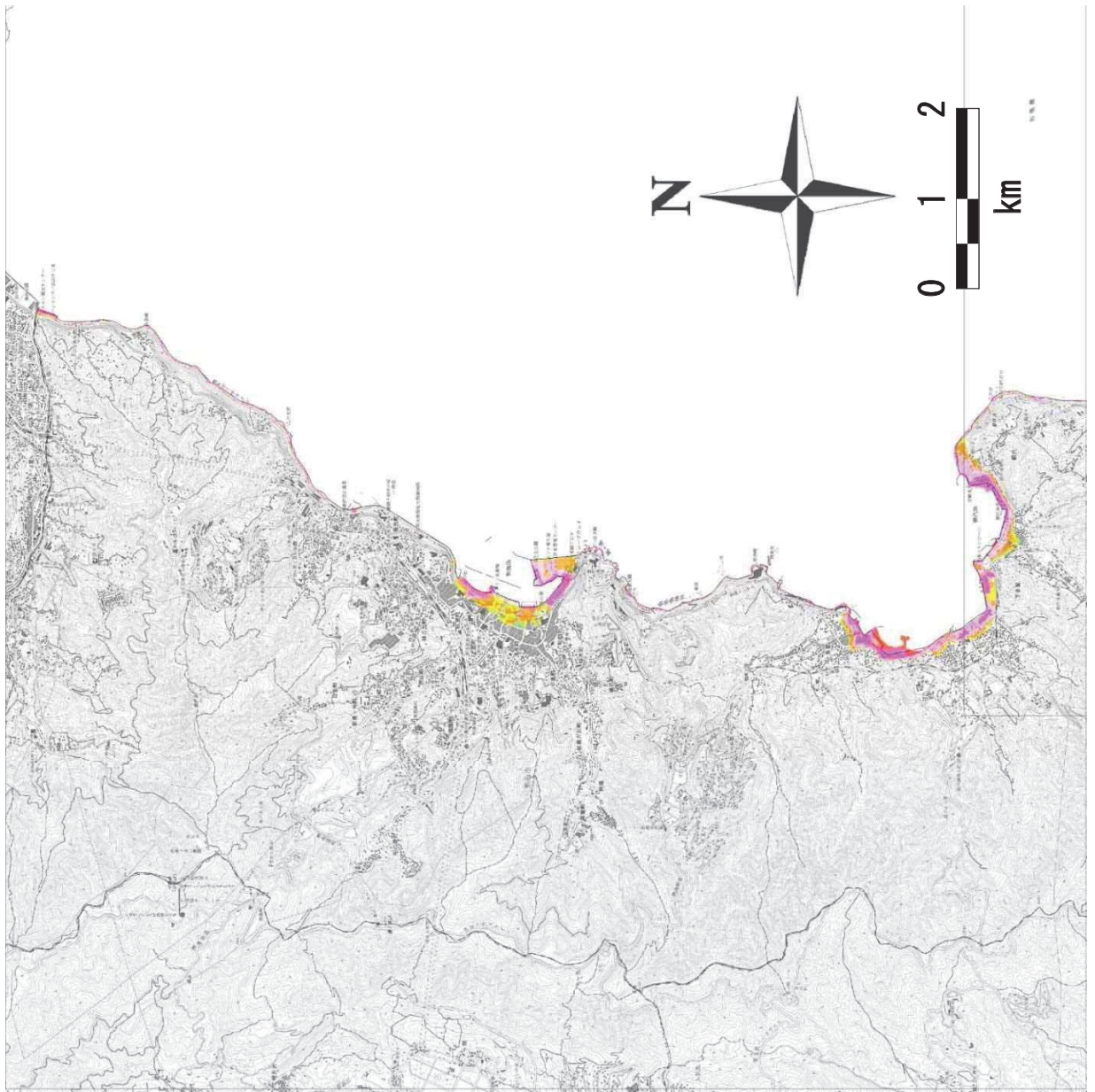


【留意事項】

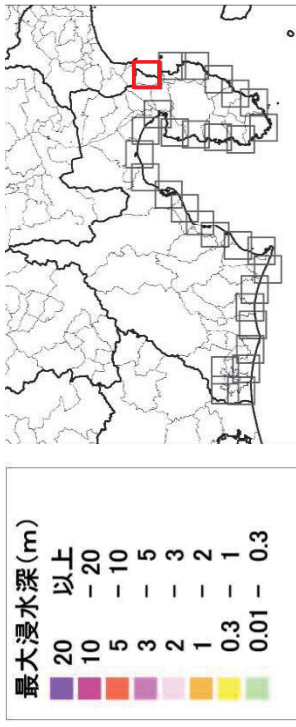
- 本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。（南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元禄型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです）。
- ・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるという仮定をしています。
- ・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。
- ※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。
- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないといわれた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。
- 本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波の想定は最新の地形データに基づいておりますが、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用しました。」（承認番号 平 244-61SMAP31012号）

レベル2の津波の最大浸水深図（重ね図）（m）



30 熱海市



【留意事項】

○本資料は、最大クラスの津波が次のような悪条件下において発生したと仮定した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。（南海トラフ巨大地震のケース①、②、⑥、⑦、⑧、⑨と元禄型関東地震の浸水域図を重ね合わせたものです）。

- ・コンクリート製の海岸堤防や河川堤防は地震動により破壊されるという仮定をしています。
- ・土で築造された海岸堤防や河川堤防は地震動により高さが元の高さの25%まで沈下し、津波が乗り越えたと同時に無くなるという仮定をしています。

※上記の仮定条件は、今後の防災・減災対策を検討する上で最悪の事態を想定しておく必要があるために設定したものであり、実際の地震において堤防が全て壊れるということではありません。今後、県では、堤防の耐震化や液状化対策とともに、仮に津波が乗り越えたとしても粘り強く効果を発揮する構造への改良を進めていきます。

○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものです。これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。過去の地震津波においては、本資料で示した浸水域より内陸部まで津波が到達している記録が残っている場所もあり、本資料で浸水しないといわれた地域においても津波の危険性が全く無いということではありません。

○本資料に示される浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

○浸水域や浸水深は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

○津波の想定は最新の地形データに基づいており、背景の地図には古いものが含まれています。最新の地図が発行された際は差し替えます。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。」（承認番号 平24-615MAP31012号）